

## 会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

|           |   |        |  |
|-----------|---|--------|--|
| 附属機関等の名称  | 令和7(2025)年度第2回みよし市地域福祉計画審議会   |        |  |
| 開催日時      | 令和8(2026)年2月6日(金)<br>午前10時から正午まで  |        |  |
| 開催場所      | みよし市福祉センター3階 大ホール   |        |  |
| 出席者       | (会長)<br>佐野真紀(学識経験者)<br>(委員)<br>梅川小夜子(民生児童委員代表)、久野知英(福祉団体推薦者)、熊谷かの子(福祉団体推薦者)、木下誠(福祉団体推薦者)、廣瀬邦仁(福祉団体推薦者)、木戸雅俊(福祉団体推薦者)、富永涼輔(福祉団体推薦者)、山田淳子(教育関係者)、江上俊郎(教育関係者)、渡邊祥子(教育関係者)、小林容子(行政機関代表)<br><br>欠席/翠健一郎(医療関係者)、前澤晏(福祉団体推薦者)、戸田輝子(行政機関代表) |        |  |
| 次回開催予定日   | 令和8(2026)年7月  |        |  |
| 問合せ先      | 福祉部 福祉課<br>担当者 清水、中根<br>電話 0561-32-8010(直通)<br>ファクシミリ 0561-34-3388<br>e-mail fukushi@city.aichi-miyoshi.lg.jp   |        |  |
| 下欄に掲載するもの | 議事録全文   | 要約した理由 |  |
| 審議経過      | 別紙のとおり  |        |  |

# 令和7(2025)年度第2回みよし市地域福祉計画審議会会議録

日時 令和8(2026)年2月6日(金)

午前10時から正午まで

場所 みよし市福祉センター3階大ホール

## 1 あいさつ

|          |  |
|----------|--|
| 福祉部次長兼課長 | <p>ただ今より令和7年度第2回みよし市地域福祉計画審議会を開催いたします。まず、会場が衆議院選挙の関係で急遽変更になったことについてお詫びします。では、開会にあたり、礼の交換をさせていただきますので、皆さん、御起立の方、お願いします。</p> <p>【一同、礼】<br/>御着席ください。</p> <p>本日の会議は、みよし市附属機関の設置及び運営に関する要綱第6条の規定により公開としておりますので、よろしく願いいたします。なお、計画策定業務の受託者である Next-i 株式会社の担当者が同席しておりますので、御承知おきください。また、御発言の際には、お手元のマイクを御利用して発言をお願いいたします。</p> <p>では、まず本日の資料の確認をさせていただきます。本日の会議資料は事前送付させていただいております。まず次第、ホチキス留めのA4資料1アンケート調査票と、資料2のアンケート調査結果、A4資料3のスケジュールです。また、委員名簿と座席表を机上に配布させていただいております。資料の過不足はありませんか。</p> <p>今回、民生児童委員の改選によりまして、委員の変更があります。梅川小夜子様へ委員の委嘱をさせていただいております。職期間は本日から令和8年3月31日となります。委嘱状は机上に交付しておりますので、御確認ください。本日、翠委員と前澤委員と戸田委員が御都合により欠席となっております。</p> <p>続きまして、次第1の佐野会長からの御挨拶をお願いいたします。</p> |
| 佐野会長     | <p>皆さん、こんにちは。会長を仰せつかっております佐野と申します。本日は地域福祉に関するアンケート調査の結果報告ということで、結果を見ながら、今後このデータをどんなふう活かしていくか、またさらに詳しく見るためにどこを見ていきたいと思いますかというような、そんなお話をさせていただきたいと思っております。</p> <p>いつもこの会議は、皆様方の様々の立場からの多様な視点をいただいで、有意義な会議になっていると思います。本日も皆様のお力をお借りして議事を進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>   |

## 2 議題

### (1) 第5期みよし市地域福祉計画策定アンケート内容について

|          |   |
|----------|---|
| 福祉部次長兼課長 | <p>それでは議事に移らせていただきます。みよし市地域福祉計画審議会要綱第5条第1項により、会長が議長を務めることとなっておりますので、会議の取り回しについて、佐野会長をお願いしたいと思います。</p>   |
| 佐野会長     | <p>着座にて進めさせていただきます。まず、議題に入る前に、会議の成立の報告をします。本日の出席委員は12人で、審議会定数の2分の1以上の出席であり、要項第5条第2項の規定により本会議は成立しておりますので、報告いたします。なお、委員の皆様のお都合がございますので、正午までには会議を終了し</p> |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>たいと考えております。委員の皆様の御協力をお願いいたします。それでは、議題(1)第5期みよし市地域福祉計画策定アンケート結果について、事務局より説明をお願いいたします。</p>   |
| 事務局 | <p>第5期市地域福祉計画策定アンケートの内容について、事務局から説明をさせていただきます。資料ナンバー1を御覧ください。</p> <p>委員の皆様にはアンケートの草案を第1回の審議会で御審議いただいております。御意見いただいた内容をもとに確定版への変更をさせていただいておりますので、その変更点等をお伝えいたします。</p> <p>アンケートは、市民の皆様の福祉に対する意識や地域活動への参加状況を把握し、計画策定の基礎資料とするために実施するものです。草案作成後、皆さんからの意見を参考に庁内でも協議をいたしまして、最終的には会長にも御確認していただいた上で確定いたしております。</p> <p>主要な変更点について、確定版の該当ページを示しながら御説明いたします。まず、対象年齢を15歳以上の方としておりましたが、確定版では対象年齢を18歳以上の方に変更いたしております。第1回審議会の中で、内容的に15歳や16歳の方には難しいのではないかとというような御意見があり、それを踏まえまして、成人年齢の引き下げもありましたので、18歳以上の方に変更いたしております。</p> <p>確定版の資料4ページ問17の近所への手助けの状況です。この質問では、第1回の審議会では「何も手伝わない」という選択肢が11にありましたが、確定版では、「手助けしない」と「手助けする余裕がない」という2つの分類に分けております。これにより、手助けしない理由として意思がないのか余裕がないのかということとを区別するようにして、より正確に市民の支援の可能性を把握し、施策立案に活用できるようにしたいと考えて変更しております。</p> <p>確定版6ページ問20の公益活動に参加する条件についての質問です。草案では選択肢が12項目でしたが、確定版では14項目に増やしております。具体的には、11番の「気軽に参加し、気軽にやめられる」と、12番の「窓口が分かりやすく相談しやすい」という選択肢を新たに追加いたしております。これは、ボランティア活動への心理的ハードルを下げる施策を検討するための情報を収集する目的で回答を追加しております。</p> <p>資料8ページ問28の福祉サービスに関する情報の入手先につきましては、草案では問30としてもう少し後に配置しておりましたが、確定版では問28として配置し、質問の順序を整理して、より回答しやすい流れとしております。</p> <p>問29の福祉サービスを安心して利用するために市が取り組むべきことについてです。草案では、「適切な福祉サービス供給のために最も必要だと思うもの」という表現でしたが、確定版では、「利用者が自分に合った福祉サービスを安心して利用するためには、市は今後どのように取り組むといいと思いますか」という表現に変更しております。</p> <p>9ページから10ページの間30から問33です。成年後見制度に関する質問につきまして、草案では問32から問35として配置しておりましたが、確定版では質問の順序を再構成しております。具体的には、まず問30で成年後見制度の認知度を確認し、問31で利用意向を尋ね、問32で現状での相談や利用意向を確認した上で、最後の問33で市民後見人としての活動への興味を尋ねるという流れに変更しております。これにより、回答者の理解を深めた上での意向を確認できるようになっております。</p> <p>資料11ページ問39の居住支援制度に関する質問です。草案では問44として配置しておりました。草案では、「あまり必要だと思わない」「全く必要だと思わない」を選択した方に必要ないと思った理由を尋ねておりましたが、確定版では、「必要だと思う」「ある程度必要だと思う」を選択した方にどのような支援が必要かを尋ねる形に変更しております。これにより、具体的な支援ニーズを把握</p> |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>し、政策立案に直結する情報を収集できるようにしております。</p> <p>その他、全体として、ルビ、ふりがなの追加をしております。障がいのある方ですとか高齢者の方とか、多様な市民の皆様が回答しやすいように配慮したものです。</p> <p>また、質問数の変化として、委員の多数の方からいただいております。草案では問1から問45まで、それに付随する質問を入れると57問の質問がありまして、ページ数も14ページありましたが、問40までにして、トータルの質問数を47と10問減らした関係で、ページ数も11ページに削減ができております。質問の統合、再構成により回答者の負担を軽減しております。</p> <p>以上が主要な変更点です。まず、対象年齢を18歳以上に変更したこと、選択肢の追加や質問順序の整理によってより詳細なニーズ把握が可能になったこと、ルビを付けたことによって多様な市民の皆様が回答していただきやすくなったこと、質問数の削減と再構成により回答しやすいアンケートに変更しております。</p> <p>これらの修正を加えた形で市民の皆様がアンケートを実施しまして、出た結果を第5期の地域福祉計画策定の基礎資料として活用してまいりたいと思っております。</p> <p>以上で計画のアンケートの変更点の報告を終わります。</p> |
| 佐野会長 | ただ今の説明につきまして何か御意見等ございましたら、挙手の上、発言をお願いいたします。  |
| 久野委員 | 内容のことではないのですが、実はアンケートに二次元コードがついているのですが、この紙で回答した人と二次元コードで回答した人と、割合がどのくらいになったのですか。   |
| 事務局  | 御質問ありがとうございます。有効回答数が595通で、紙が375件、Webが220件となっております。   |
| 佐野会長 | 他に御意見、御質問はございますか。よろしいですかね。   |

(2)第5期みよし市地域福祉計画策定アンケート結果について

|      |  |
|------|--|
| 佐野会長 | それでは、議題を進めたいと思います。引き続き、事務局からの説明をお願いいたします。  |
| 事務局  | <p>ここからは調査の結果の報告をさせていただきます。まず、調査の概要から御説明いたします。報告書3ページを御覧ください。</p> <p>今回のアンケート調査は、令和7年10月23日から11月12日にかけて実施いたしました。みよし市在住の18歳以上の市民から1,200名を無作為抽出し、郵送による配布を行いました。回収につきましては郵送以外にWebも併用して行っております。</p> <p>有効回答数が595通、紙が375件で、webが220件、有効回答率が49.6パーセントとなっております。令和元年度に実施した第4期計画策定時のアンケート調査との比較ですが、今回は調査対象が15歳以上からで1,000人を無作為抽出して行いました。その有効回答数が467通で、有効回答率が46.7パーセントとなっております。</p> <p>今回は、第1回審議会で委員からの意見を考慮して対象年齢を18歳以上に変更し、また配布数を(前回調査時より)200通増やしたことで回収率が2.9ポイント上昇しており、より多くの市民の皆様が御意見を伺うことができたと考えております。</p> <p>次に、報告書の7ページから46ページまでの各設問について順を追って説明するとともに、第4期計画策定時のアンケートとの比較、特に5ポイント以上の差があった項目を重点的に御説明いたします。</p> <p>先ほどもお伝えしましたように、第1回審議会で、アンケート案に対する意見として、質問数が多くて回答者が疲れてしまうのではないかという意見をいただ</p> |

いておりましたので、質問数が 57 件でページとしては 14 ページあったのですが、47 件の 11 ページと最小限に変更しております。

アンケート調査結果につきまして、7 ページの問 7 から説明をさせていただきます。みよし市に住んで何年になりますかという質問ですが、「41 年以上」が 27.7 パーセントで最も高く、次いで「21～30 年」が 22.2 パーセント、「11～20 年」が 14.5 パーセントとなっております。

問 8、みよし市に愛着はありますか。「まあまあ愛着を感じている」が 48.2 パーセントで最も高く、次いで「愛着を感じている」が 40.8 パーセントとなっております。

今後もみよし市に住み続けたいですかという質問に対しては、「住み続けたい」が 46.1 パーセントで最も高く、次いで「なるべく住み続けたい」が 40 パーセントとなっております。前回調査との比較では、「なるべく住み続けたい」が増加しております。「住み続けたい」が減少しております。定住の意向は依然として高いものの、やや慎重な姿勢が見られるように思います。年齢別では、年齢の高い人ほど「住み続けたい」が高く、年齢の低い方ほど「なるべく住み続けたい」が高い傾向が見られます。

続きまして、みよし市以外に移り住みたい理由になります。10 ページを御覧ください。「交通の便の良いところに住みたいから」が 70.1 パーセントで最も高く、次いで、「買い物やレジャー等に便利なところに住みたいから」が 42.1 パーセントとなっております。前回調査との比較では、「交通の便の良いところに住みたいから」が増加して 70 パーセントに達しており、交通便利性の重要性が一層高まっていることがわかります。また、「治安がいいところに住みたい」が調査のたびに増加をしております。

11 ページ問 10、病気や怪我などで大変な時に最も頼れるのは誰ですかという質問に対して、「家族」が 91.1 パーセントで圧倒的に高くなっております。

その人とはどのくらいの頻度で連絡を取っていますかということで、「ほぼ毎日」が 54.2 パーセントで最も高く、次いで「週に 1 回以上」が 8.0 パーセントとなっております。

この問 10 ですが、次期地域福祉計画でも重点を置くことになると思われる孤独・孤立の度合い、身寄りのない方の度合いを測るものでして、調査では問中の 2.5 パーセントの方が頼れる人はいないと回答しております。今回、18 歳以上の方にアンケートを行っております。今 18 歳以上の方の人口が 48,000 人となっているので、本当にざっくりとした計算になりますけれども、2.5 パーセントとなると、1,200 人程度は頼れる人がいないというふうなことで捉えられるかと思えます。

続きまして、12 ページ、ご近所との付き合いについて聞いております。「顔が合えばあいさつはする程度」が 49.1 パーセントで最も高く、次いで、「顔が合えば立ち話をする程度」が 26.4 パーセント、「特に用事がなくても行き来し、助け合いができる関係」が 11.3 パーセントとなっております。前回調査との比較では、「顔が合えば挨拶をする程度」が調査のたびに増加をしており、「近所付き合いをしていない」は前回調査の 3.4 パーセントから 7.4 パーセントと倍以上となっております。また、「特に用事がなくても行き来し、助け合いができる関係」が調査のたびに減少しており、近所付き合いの希薄化が進んでいる状況が見取れます。

ご近所との付き合い方に対する考え方です。14 ページを御覧ください。「日常生活に便利なおことが多いので必要だ」が 35.3 パーセントで最も高く、次いで、「煩わしいことが多いのであまりしたくない」が 27.4 パーセント、「親しく相談したり助け合ったりすることが当然だ」が 15 パーセントとなっております。前回調査との比較では、「煩わしいことが多いのであまりしたくない」と、「なくても困らないのでしたくない」が調査のたびに増加しており、「親しく相談したり助

け合ったりすることは当然だ」と、「日常生活に便利なおことが多いので必要だ」が調査のたびに減少しております。近所付き合いに対する消極的な意識が強まっている状況が分かります。これも孤独・孤立が進んでいく要因かと考えられます。

15 ページ、ご近所との付き合いや関わりでどんなことが大切になるとお思いますか。「日常の挨拶等による人との触れ合い」が 69.6 パーセントで最も高く、次いで「防災活動や災害の時の助け合い」が 47.1 パーセント、「日常生活で困ったときの助け合い」が 31.9 パーセントとなっております。この質問は、今回の調査から追加された項目です。

16 ページ、住んでいる地域のことでなんとかしなければならないと感じている問題。「防災や災害時のこと」が 29.6 パーセントで最も高く、次いで、「ゴミ処理や駐車、騒音などの生活環境」が 19 パーセント、「一人暮らしの高齢者や障がい者のこと」が 18.2 パーセントとなっております。前回調査との比較では、「くらしや福祉の相談ができない」「住民同士のまとまりが乏しい」「子供の非行やいじめ」が調査のたびに減少をしております。なお、防災や災害時のことは今回調査から追加された項目です。

資料 19 ページを御覧ください。人との付き合いについて、自分には人との付き合いがないと感じることがあるには「ほとんどない」が 39.8 パーセントで最も高く、次いで、「時々ある」が 30.1 パーセントとなっております。また、自分は取り残されていると感じることがあるでは、「ほとんどない」が 53.8 パーセント、自分はほかの人たちから孤立していると感じることがあるでは、「ほとんどない」が 53.1 パーセントとなっております。孤独感のスコア化による分析では、全体の傾向として、回答者の孤独感はほとんどないという結果となりました。一方で、孤独感が常にあると回答した人も少数ながら数名いらっしゃいます。

20 ページを御覧ください。日常生活が不自由になったとき、地域でどのような手助けをしてほしいと思うかという質問に対し、「災害時の手助け」が 49.2 パーセントで最も高く、次いで、「日々の見守りや安否確認の声かけ」が 46.1 パーセント、「通院などの外出の手伝い」が 35.6 パーセントとなっております。前回調査との比較では、「お弁当などの配食」「ちょっとした買い物やゴミ出し」「通院などの外出の手伝い」が調査のたびに増加し、「日々の見守りや安否確認の声かけ」が調査のたびに減少をしております。性別では、女性は男性に比べ、「短時間の子供の預かり」や「子育ての相談」が高くなっております。

続いて、23 ページを御覧ください。困っている人がいたら、どのような手助けができますか。「日々の見守りや安否確認の声かけ」が 52.9 パーセントで最も高く、次いで「防災時の手助け」が 38.7 パーセント、「ちょっとした買い物やゴミ出し」が 30.4 パーセントと続きます。過去の調査と比較すると、「日々の見守りや安否確認の声掛け」「ちょっとした買い物やゴミ出し」「通院などの外出の手伝い」「趣味などの話し相手、相談相手」が調査のたびに減少しています。「手助けする余裕がない」は、今回調査から追加された項目で 12.6 パーセントとなっております。

25 ページを御覧ください。手助けしないを選択した方の理由となります。「手助けしたいと思うが、どの程度まで手伝えれば良いのか分からない」「手助けと言われても何をすれば良いのか分からないから」が 17.4 パーセントで最も高く、次いで、「その家庭の問題であり、家族や親戚で解決すれば良いと思う」「福祉サービスなどを利用すればよく、特に自分が手伝える必要はないと思う」が 13 パーセントとなっております。前回調査との比較では、「福祉サービスなどを利用すればよく、特に自分が手伝える必要はないと思うから」が増加し、「地域との関わりが薄いから」「行政(市役所など)の役割だと思うから」が減少をしております。

続いて、26 ページを御覧ください。行政区の行事や地域活動などに参加したことがあるかを聞いています。「時々参加している」が 32.6 パーセントで最も高

く、次いで、「何らかの役割を持っているときのみ参加している」が 27.4 パーセント、「行事、活動を知らない」が 13.8 パーセントとなっています。

18 の 1 で参加されていない理由を聞いております。「時間的な余裕がないから」が 30.2 パーセントで最も高く、次いで、「関心がないから」が 17.4 パーセント、「情報が入りにくいから」が 16.1 パーセントとなっています。

次に、27 ページです。現在、公益活動に参加していますかという質問に対し、「参加していない」が 65.7 パーセントで最も高く、次いで「環境美化に関する活動」が 20.7 パーセント、「スポーツ・文化・レクリエーションに関する活動」が 8.9 パーセントとなっております。前回調査との比較では、「参加していない」が調査のたびに増加しております。公益活動への参加が減少傾向にあることが分かります。

資料 29 ページ、気軽に公益活動に参加できる環境やきっかけです。「気軽に参加し、気軽にやめられる」が 43.2 パーセントで最も高く、次いで「活動の時間や内容が自分に合っている」が 41.8 パーセント、「友人や家族と一緒に活動できる」が 17.6 パーセントとなっています。

次に、30 ページ、福祉の取組に対する考え方です。福祉に関する課題については、「行政と住民、地域住民が共に協力し合って取り組むべきものだと思う」が 57.3 パーセントで最も高く、次いで、「福祉は国や地方自治体の責任で行うべきであると思う」が 21.3 パーセント、「福祉とは恵まれた人が困っている人に対して慈善的に手を差し伸べることだと思う」が 12.6 パーセントとなっています。過去の調査と比較すると、「福祉は国や地方自治体の責任で行うべきであると思う」が、調査のたびに増加しています。

続いて 31 ページ。問 22、毎日の暮らしの中でどのようなことに不安を感じますかについて、「自分の健康に関すること」が 54.3 パーセントで最も高く、次いで、「収入や家計に関すること」が 33.3 パーセント、「災害に関すること」が 29.6 パーセントとなっております。前回調査との比較では、「収入や家計に関すること」が増加しており、「自分の健康に関すること」「介護に関すること」は調査のたびに減少しております。経済的な不安が高まっている状況がうかがえます。

問 23、不安について誰であれば相談できますか。「家族・親類」が 81.2 パーセントで最も高く、次いで「知人や友人」が 37.3 パーセント、「公的な相談窓口」が 20.5 パーセントとなっております。

資料 32 ページ、暮らしや福祉に関わる悩み事の相談先として知っているものや利用したことがあるものはありますかということに対して、「知っていて利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」の合計による知っている人の割合は、「民生委員・児童委員」が 62.4 パーセントで最も高く、「コミュニティソーシャルワーカー」が 25 パーセントで最も低くなっております。コミュニティソーシャルワーカーにつきましては、市として設置したのが令和 6 年度からであるため、今後の伸びに期待したいところです。また、それぞれの回答で、「知っているが利用したことはない」「知らない」が大半を占めており、相談先が十分に認知されておらず、実際の利用にもつながっていない可能性がうかがえます。

問 25、市の相談支援の取組について、各質問に対し、「そう思う」と「割とそう思う」の合計は、「どの窓口で相談しても適切な支援につないでくれる」が 29.6 パーセントで最も高くなっておりますが、どの項目に対しても 50 パーセント以上の人が「分からない」「知らない」と回答しており、市の相談支援の取組についても認知度が低い状況が見て取れます。今後、重層的支援体制を整備していく中で、「そう思う」や「割とそう思う」の割合が上がっていくことを目指します。

続いて、33 ページの問 26、福祉サービスが必要になったとき、すぐにサービス

を利用しますか。「抵抗なく利用したい」が 58.2 パーセントで最も高く、次いで「抵抗はあるが利用したい」が 29.6 パーセント、「できるだけ利用したくない」が 7.2 パーセントとなっております。前回調査との比較では、「できるだけ利用したくない」が増加しており、「抵抗はあるが利用したい」が減少しております。利用に対する慎重な姿勢が強まっていることがうかがえます。

続いて 35 ページ。援助を必要としている人が十分な福祉サービスを受けているかという質問に対し、「ある程度満足できる福祉サービスを受けていると思う」が 52.6 パーセントで最も高く、次いで、「十分な福祉サービスを受けているとは思えない」が 20.3 パーセントとなっております。前回調査との比較では、「十分な福祉サービスを受けているとは思えない」が減少しております。

37 ページ問 28、福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。「市の広報紙『広報みよし』」が 56.3 パーセントで最も高く、次いで「市のホームページ」が 32.3 パーセント、「行政区などの回覧」が 14.3 パーセントとなっております。市による情報発信が重要な役割を果たしている現状がうかがえます。

続いて 38 ページ問 29、利用者が自分に合った福祉サービスを安心して利用するためには、市が今後取り組むべき内容という質問に対して、「適切な相談対応やサービス選択の支援ができる体制を整える」が 56.5 パーセントで最も高く、次いで、「各種メディアや SNS 等を活用して福祉サービスに関する情報提供を充実させる」が 46.6 パーセント、「福祉サービスの利用者の権利が守られる仕組みをつくる」が 22 パーセントとなっております。前回調査との比較では、「福祉サービス利用者の権利が守られる仕組みをつくる」が増加している一方で、「各種メディアや SNS 等を活用して福祉サービスに関する情報提供を充実させる」が減少しております。情報提供の拡充よりも、より安心して利用できる仕組みづくりが求められていることがうかがえます。

次に、39 ページ、成年後見制度について聞いております。問 30、成年後見制度について、「聞いたことはあるが内容は知らない」が 36.6 パーセントで最も高く、次いで「知らない」が 33.4 パーセント、「知っているが利用する必要がない」が 25.5 パーセントとなっております。前回調査との比較では、「知らない」「聞いたことはあるが内容は知らない」が増加し、「知っているが利用する必要がない」が減少しております。市の高齢化は進んでおり、令和 2 年度に成年後見支援センターを設置しているにもかかわらず、制度の認知度は依然として低い状況にあります。

問 31、40 ページ認知症などにより判断が十分にできなくなった時、成年後見制度を利用したいと思うかという質問で、以下、問 33 までは今回調査から追加された項目です。1 点修正がございます。31 の 1 のところにある結果の説明とグラフが問 31 のもので、問 31 のところにあるものが問 31 の 1 の説明とグラフとなっております。失礼しました。「利用したい」と回答した人からは、「親子、兄弟、配偶者、その他親族」が 81.8 パーセントで最も高く、次いで「専門職」が 11.7 パーセント、「法人後見人」が 4.4 パーセントとなっております。

問 31 の 2、資料 41 ページです。「利用したくない」を選んだ人の理由としては、「後見人ではなくても家族がいるから」が 80.7 パーセントで最も高く、次いで、「他人(家族含む)に財産などを任せることが不安だから」が 31.3 パーセント、「費用のことが心配だから」が 19.3 パーセントとなっております。

資料 42 ページ、成年後見制度の利用や制度の相談をしたいと思いませんかという問に対し、「相談・利用するつもりがない」が 60 パーセントで最も高く、次いで、「利用の予定はないが相談してみたい」が 26.7 パーセント、「利用を前提とした相談をしたい」が 4.4 パーセントとなっております。

市民後見人としての活動に興味はありますかという問 33 ですが、「興味はない」が 78.5 パーセントで最も高く、市民後見人としての活動についても関心が低い状況がうかがえます。

続きまして、43 ページ。防災災害対策に関して、あなたの世帯では防災災害対策が行われていますかという質問に対し、「1 日～数日分の備蓄品を用意している」が 55 パーセントで最も高く、次いで、「災害発生時の対応(避難場所など)が決まっている(家族で話し合っている)」が 35 パーセント、「家具を固定している」が 32.4 パーセントとなっております。

問 35、災害時の避難行動要支援者の支援についての考え、「近所に住むものとしてできる範囲で協力したい」が 33.6 パーセントで最も高く、次いで、「支援をしたいがその余裕がない」が 22.4 パーセントで、「支援したいが何をすればいいのかわからない」が 20.7 パーセントとなっております。前回の調査と比較すると、「個人では取り組みにくいので誰かと一緒に活動したい」が調査のたびに増加をしております。

資料の 44 ページ、経済的困窮について、身の回りには経済的理由により生活に困っている人はいますかという質問に対し、「いない」が 46.4 パーセントで最も高く、次いで、「わからない」が 44.2 パーセント、「いる」が 5.5 パーセントとなっております。

問 37、生活に困っている人を見つけたとき、誰に相談しますかという質問に対し、「市役所」が 48.4 パーセントで最も高く、次いで、「家族」が 31.6 パーセント、「行政区の役員や近所の人」が 19.8 パーセントとなっております。

生活に困っている人に対してどのような支援ならできそうかという問 38 ですが、「声かけ・見守り」が 43 パーセントで最も高く、次いで、「必要な支援先への連絡」が 34.5 パーセント、「必要な支援先の情報提供」が 25.5 パーセントとなっております。

資料 46 ページ問 39、高齢者、障がい者、外国人など、住宅の確保に配慮が必要な方々が住まいを借りやすくなるような制度や仕組みについてという質問に対し、「ある程度必要だと思う」が 35.5 パーセントで最も高く、次いで、「必要だと思う」が 32.9 パーセント、「よくわからない」が 20.8 パーセントとなっております。

どのような支援が必要だと思いますか、という質問に対し、「利用できる制度の情報提供」が 70 パーセントで最も高く、「住居探し」が 57.2 パーセント、「入居契約更新時などの手続き」が 50.6 パーセントとなっております。次期計画では居住支援についても記載する予定で、今回の回答は居住支援の充実を望むデータとして活用できそうです。

以上で問 7 から問 39 の 1 までのアンケート調査結果の説明を終わります。

続きまして、今回実施しました第 5 期みよし市地域福祉計画アンケートの結果が、第 4 期みよし市地域福祉計画に掲げられた目標数値を達成できているかどうかについて御報告申し上げます。第 4 期計画では 4 つの基本目標ごとに成果指標と目標数値を設定し、施策を推進してまいりました。本日は、地域福祉計画冊子 60 ページ、66 ページ、71 ページ、83 ページに掲げられました目標数値につきまして、令和元年度の数値と比較しながら御説明いたします。

資料 60 ページ「地域住民等が共に助け合い、支え合う環境(関係)づくり」成果指標としましては、公益活動への参加をしている人の割合としております。令和元年度の数値が 35.5 パーセント、目標数値は 45 パーセントと設定してございました。今回の令和 7 年度調査の結果ですが、問 19 で公益活動に参加していない方が 65.7 パーセントとなっており、逆算いたしますと、公益活動に参加している方の割合が 34.3 パーセントとなります。令和元年度の 35.5 パーセントと比較いたしますと約 1.2 ポイントの減少が見られ、目標数値の 45 パーセントには 10 ポイント程度届いていない状況でございます。全体としては、依然として参加していないという方が多数を占めておりまして、目標達成には至っておりません。今後、地域福祉活動への参加を促進するためのより一層の取組が必要であると考えられます。

計画冊子 66 ページ、基本目標 2、「誰もが必要な福祉サービスを利用できる体制づくり」成果指標が十分な、またはある程度満足できる福祉サービスを受けていると思う人の割合に対して、令和元年度の数値は52.2パーセント、目標数値を60パーセントと設定しておりました。今回の令和7年度調査の結果ですが、問27、現在何らかの援助を必要としている人が必要な福祉サービスを受けていると思いますかにおきまして、「十分な福祉サービスを受けていると思う」が5.7パーセント、「ある程度満足できる福祉サービスを受けていると思う」が52.6パーセントとなっており、合わせて58.3パーセントとなっております。令和元年度の52.2パーセントと比較いたしますと6.1ポイントの大幅な改善が見られますが、目標数値の60パーセントにはわずかに1.7ポイント届かない状況でございます。ただ、ほぼ目標を達成したと評価できるのではないかと考えております。また、「十分な福祉サービスを受けているとは思えない」と回答した方は10.3パーセントとなっており、令和元年度の32.8パーセントから12.5ポイントの大幅な減少となっております。福祉サービスに対する市民の満足度が着実に向上していることがうかがえます。

基本目標 3、「地域福祉の活動に積極的に関わる担い手づくり」の成果指標です。福祉の取組に対する考え方で、「地域住民と行政が共同で取り組むべきもの」と回答した人の割合としておりますが、令和元年度の数値が59.5パーセント、目標数値を65パーセントと設定しておりました。今回の令和7年度調査の結果でございますが、問21あなたの福祉の取組に対する考え方はどれに1番近いですか、におきまして、「福祉に関する課題については、地域住民が行政とともに協力し合って取り組むべきものだと思う」と回答した方の割合を確認します。この項目については、過去の調査から大きな変化は見られず、ほぼ同水準で推移しております。ただし、令和元年度の59.5パーセントと比較して57.3パーセントと2.2ポイント減少となっております、目標数値の65パーセントには約8ポイント届いていない状況です。一方で、「福祉は国や地方自治体の責任で行うべき」との回答が増加しており、行政への依存傾向が高まっているように見えます。地域住民と行政が共同で福祉に取り組むという意識は一定程度定着しているものの、さらなる意識の向上が必要であり、目標達成には至っておりません。今後、地域福祉活動への参加促進や共同の意識を高めるための啓発活動を強化していく必要があると考えております。

最後に、83 ページを御覧ください。基本目標 4、「地域福祉の推進に向けた仕組みづくり」の成果指標です。令和元年度の数値は7.5パーセント、目標数値を10パーセントと設定しておりました。この指標は、地域福祉の推進により、市民が安心して暮らせる環境が整備され、不安を感じることなく生活できる方が少しでも増えることを目指したものです。今回の令和7年度調査の結果ですが、問22あなたは毎日の暮らしの中でどのようなことに不安を感じるがありますか、において、「特にない」と回答した方の割合は7.2パーセントとなっております。令和元年度の7.5パーセントと比較いたしますと0.3ポイント減少しております、目標数値の10パーセントには2.8ポイント届いていない状況で目標達成には至っておりません。不安の内容を見ますと、「自分の健康に関すること」が54.3パーセントで最も高く、次いで「収入や家計に関すること」が33.3パーセント、「災害に関すること」が29.6パーセントとなっております。「収入や家計に関すること」が増加しており、経済的な不安が高まっていることがうかがえます。地域福祉の推進により、市民が安心して暮らせる環境を整備していくことが引き続き重要な課題と捉えております。

総括としまして、第4期みよし市地域福祉計画に掲げられました目標数値の達成状況ですが、基本目標1の公益活動への参加につきましては目標未達成、基本目標2の福祉サービスの満足度はほぼ目標達成、基本目標3の地域住民と行政が共同で取り組むべきという認識は少々減少しており、目標未達成、基本目標4の

|      |   |
|------|---|
|      | <p>毎日の暮らしで不安を感じていることが特でない人の割合は横ばいとなっており、目標未達成という状況です。</p> <p>4つの基本目標のうち、基本目標2につきましてはほぼ目標達成と言えるかなと思いますが、これにつきましては、福祉サービスの充実に向けた取組が一定の成果を上げたものとして評価できます。</p> <p>一方で、基本目標1、3、4につきましては、目標達成に至っておりません。特に、基本目標4の不安を感じていない、感じない人の割合が横ばいであることは、市民の生活不安が依然として高い水準にあることを示しております。収入や家計に関することへの不安が増加していることから、経済的な支援や相談体制の充実が求められます。</p> <p>基本目標3の共同意識につきましては、一定程度定着しているものの、さらなる向上が必要です。地域福祉活動への参加促進と合わせて、地域住民と行政が共に地域課題に取り組む意識を高めていく必要があります。</p> <p>第5期地域福祉計画の策定にあたりましては、これらの達成状況を踏まえ、特に以下の点に重点的に取り組んでまいりたいと考えております。広域活動への参加促進のための環境整備、地域住民と行政の共同意識の醸成、市民の生活不安を軽減するための包括的な支援体制の充実、これらの課題に取り組むことにより、誰もが安心して生き生きと暮らす共生のまちづくりを推進してまいります。</p> <p>以上で今回のアンケート結果の報告とさせていただきます。</p> <p>委員の皆様からは、アンケート結果を見ての感想や、クロス集計した方がいいのではないかと思われる項目等をお聞かせいただけたらと思っております。よろしくお願いたします。</p> |
| 佐野会長 | <p>ただ今の説明につきまして何か御意見等ございましたら、挙手の上、発言をお願いいたします。</p> <p>感想が色々あるかと思うので、まとめていただくまでの間に、私が気づいたことの確認をさせていただきたいのですが、説明のところの文言とグラフの文言が違ってないかなと思ったのが、資料10 ページ間9の1の説明のところで、「交通の便の良いところに住みたいから」が71.1パーセントですが、グラフは70.1パーセントになっていまして、ここはどちらが正しいですか。</p>   |
| 事務局  | <p>グラフです。</p>   |
| 佐野会長 | <p>他に、「買い物やレジャー等に便利なおところに住みたいから」の数字が少し違うので、後で修正をお願いします。</p>   |
| 渡邊委員 | <p>私はアンケートや統計学がどういうものか、よくわからないですけども、いくつか質問と意見があります。</p> <p>まず、1,200人に配布して595人、回収率が49.6%というのは、ごく普通のことなんでしょうか、ということが一つです。それからもう一つは、6ページのことなんですけれども、三好上が15.6%というのは、ランダムに配布した方々の町名がこれということですか。これがなんとなくベースに感じられるのですが、元々三好上の人口が多かったから15.6%なのか、それとも人口が少ないところでも大勢いらっしゃるのに、たった0.7%なのか。私は本当にこれでこの数字を理解していいのかな、というのが一つ気になっています。</p> <p>もう一つは、これを本当に次の施策に活かしたいというのであれば、私は数日前に資料を受け取って、本当に目を通すのが大変で、半分ぐらいしか読み込んでいません。もう少し余裕がある期間があればと思います。例えば、11月12日からまとめ始めて、我々のところに届いたのが2月5日ぐらいでしたので、その2ヶ月と24日ぐらいでまとめられた資料を、我々が受け取ってから全部見ようと思うと、時間が足りないです。</p> <p>本気で取り組むなら、私たちが上っ面だけで説明を聞いて、「そうなんだ」というふうに流していくのが現状なのかな、と感じました。</p> <p>私は本気で、幼児教育の面から見させてもらいますし、保護者の方や地域を考</p>  |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>えています。そういう意味で、深く検討するにはやはりもう少し時間が必要じゃないか、というのと、これをまとめて市が作成したこと自体が、本当はもっと重要ではないかと思うのです。</p> <p>それがどういう方向に行政としてまとめられていくのか、というのを非常に懸念しています。</p> <p>この資料をまず、本当に読み込むのに時間がかかって、今お話しただけでもよくわかりませんでした。</p> <p>もう一つお願いしたいのは、本当に中に書いてある項目を読むだけで大変で、しかも、小さいところに模様で分けてあります。そのため、お話についていけない部分がありました。時々「0」という回答もありましたが、「0」の時には書いてない項目もありましたね。そういう点で、この時間内の説明で全部理解して、本当にお役に立てるような意見をお出しすることは、正直自信がないです。</p> <p>もう一度、この検討の機会も考えていただきたいなと思います。</p> <p>あと一番気になっているのは、その人口はどういう比率なのか、ということです。私の理解では、595 人の方の中の何パーセントということですよ。じゃあ、ベースは何人なのか、全体の人口が書いてあると、もっとよくわかるのですが。いかがでしょうか。</p>  |
| 佐野会長 | <p>御質問は、配布した時にその居住と対象者の居住地域も考慮して選んでいるかどうかということですか。</p>   |
| 渡邊委員 | <p>そうです。結果的に偏らなかったのが、ランダムにやった時に、本当に全体をちゃんと網羅して平均的に見ることができるのか。</p> <p>ランダムだった、なんとなく抽出してということに理解したら、地域で固まったりすることもあり得るのかなということ、この15パーセントという人数は、元々のベースが多かったからこうなったのか、平均的なのかということ、</p>  |
| 事務局  | <p>年齢につきましては、無作為抽出と言いながらも多少バランスをとった構成にしておりましたが、居住地域までは抽出が難しく、その部分についての整理はできておりません。一方で、行政区の人口については、今時点でこの行政区が何人かというのは、市民課にはデータがありまして、ホームページにも確か出ていたと思いますけれども、今回の結果は、回答した方の中で人口がどれだけだったということになっております。</p>  |
| 渡邊委員 | <p>私はベースをここに括弧で書いてほしいなと思います。</p>   |
| 事務局  | <p>抽出した方のリストから行政区を分別できるのかを確認いたします。</p>   |
| 渡邊委員 | <p>私が知りたいのは、これがその地域の何割の方なのか。全体の595人の15.6パーセントだけど、その三好上の地域のベースは何人なのか。</p> <p>三好上と三好丘、それから8.1%や7.1%のところが大体分母が一緒ぐらいなのかどうかということぐらいは知りたいなと思います。私たちが理解して判断する1つのイメージかな。</p> <p>それからもう1つ、25 ページの間の中で、これはもう私が最初にわからなかったのですが、令和7年度は「お節介と思われるから」という回答がないように思う。26年度、令和元年はありますけど。私はこの模様がよく見えなくて、自分で番号をつけています。</p> <p>令和7年に「お節介と思われるから」がないということは事実ですか。これは大きな問題で、お節介の方が近くにいるからこそ色々なものが広がるのですが、お節介がいなくなった原因っていうのが、令和元年度が12.5%でこんなに減るものなのかなっていうのが、そうすると抽出した中に何か原因があるのかなとも思います。平成26年度は2.1%だったのが、何かだんだん少なくなって。ただ、なんとなくわかるのですが、こういうところも非常に見えて、それからもうこの全体の距離に対して、もう前から言われている。だってもう近所付き合いできるほど余裕がないですよ。うちでいうと、幼稚園、保育園の保護者はみんな働いています。みんな働くようにという制度、国策ができていのに、もう預けたら</p> |

|             |  |
|-------------|--|
|             | <p>それに補助金が出る。それなのに近所付き合いやっている暇がない。もう朝出て行って、早く出て行って、9時には入らなきゃいけない保育園に行かなきゃいけない。もう出て行って御挨拶さえできない。もう帰ってくると、正職の方はもう6時ぐらいになる、保育園に預けた方は。</p> <p>根本的にこの辺、質問していることももう分かり切ったような感じで、もう少し本当に今の時代に即したものに変わっていかないと、今、国の政策が全員働けという時代になっているのです。だから、今もう60歳過ぎても元気な方々は働いてらっしゃいます。だから、地域よりも職場の人間関係の方がより濃くなっていくのではないのでしょうか。</p> <p>私も、自分の職場でも、40年、もう38年、39年の職員との付き合いの方が、自分の身内よりよっぽど、もう裏も表もわかる感じです。私は特にマンションの一室に住んでいますから、朝早く出て管理人のおじさんと挨拶するくらいです。それ以外の方はほとんどゴミ出しの時に一緒になるぐらいですね。</p> <p>こういう時代を見ると、もう1回これは考え直しをしないと、同じ数字が出てくるような気がしますし、根本的な何か時代がこれだけ変わったのに質問は前と同じものをベースにやっているとということにもどかしさを感じます。今を捉えているというのをもっとこういうアンケートのプロの方に出していただきたいというのが私の感想であるし、本当に「お節介と思われるから」は1人もいなかったのですよね？</p> |
| Next-i 株式会社 | <p>25 ページ問 17 の 1 につきましては、問 17 で「手助けをしない」を選択した方に伺っている設問でして、その回答者数が平成 26 年度は 47 人、令和元年度は 40 人で、令和 7 年度は 23 人となっております。今回、その 23 人の中には「お節介と思われるから」を選択した方はいなかったという結果になります。</p>  |
| 佐野会長        | <p>前回と変わっているのが、選択肢の中で、「手助けしない」と「手助けする余裕がない」というのが入っているの、「手助けする余裕がない」を選んだ人が、もしかしたら、令和元年度、平成 26 年度の 47 人とか 40 人の中に入っていて、その数字だった可能性もある。令和 7 年度が 23 人だけでも、この「手助けする余裕がない」というのが、そのマイナス 20 に寄っていて、その中にそういうものも含まれるかもしれない。</p>   |
| 渡邊委員        | <p>平成 26 年度と令和元年度とそれから令和 7 年度と、この数字の流れと時代の流れを、私たち生きているものとしては不納得です。本当にそうかなと思います。急にお節介をやり出す人がこれだけ数値的に違うのかなど。23 人の中で、「お節介と思われるから」という人が 1 人もいなかったというふうに解釈をすればいいということですね。でも、42 人の中で 4 名いらしたという。平成 26 年度は 47 人中ということでした。時代の流れから、ちょっと矛盾を感じます。古いほどお節介をする人多かったと思います。もっと人間関係が細やかだったと思います。そういう点で、これがすごく一番気になったことです。</p>   |
| 佐野会長        | <p>ありがとうございます。今、御感想いただいたのが、このデータで示されたことと実感とちょっと乖離があるよということだったかと思います。</p>   |
| 事務局         | <p>先ほどの委員の御質問の中で、この回答率の 49.6 パーセントが適正なのかどうかという御質問があったかと思いますが、これは第 1 回の審議会でも意見が出ておりました。前回の調査結果が 46.7 パーセントということで、Next-i 株式会社から、多数のアンケート調査をやっているところのデータとしましては、少ないところでは 3 割程度であったり、もっと少ないと 2 割程度になってしまうという状況だという説明がありました。幅広い年齢層の方の市民意識調査になるとそれぐらいの回答率になってしまうところ、前回の会議の中では、1,000 人に送って 467 人返ってきているので、有効回答数としては多い方なのかということ聞いておりました。さらに今年度、それよりも 2.9 パーセント上回っておりますので、こちらを参考とさせていただきたいなと考えております。</p> <p>また、そのアンケート結果をどのように活用するかということで大事なものは、</p>   |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>来年度の計画策定のところにこの結果をどのように反映させていくかということが大事なかなと思っております。</p> <p>後ほどスケジュールのところでも説明いたしますが、来年度、第3回の審議会を予定しております、その合間にもワークショップを通じてより実効性の高い計画策定に向けて事務局としても取り組んでいきたいと考えておりますので、また委員の皆様のご協力をよろしく申し上げます。</p>   |
| 福祉部長 | <p>色々貴重な御意見をありがとうございます。小さいお子さんを抱える親御さんをいつも身近で見えてらっしゃるので、そういった現場の生の声は大変貴重だと思っております。先ほど事務局が言いましたように、今後の分析、それから計画策定まで活かしていきたいと思っております。</p> <p>今回の資料に関して、直前になってしまったということで、大変申し訳ありませんでした。この後、このアンケート結果に基づいてクロス集計だとか色々分析を行いまして、来年度の第1回で分析結果を示しながら、計画案の策定というようなスケジュールで考えております。</p> <p>それまでの間に、皆様からも、今日この場で言えなかったっていうような御意見等がありましたら、また少し期間を設けさせていただきますので、そこで御意見いただいて、先ほど申し上げた分析結果は、どこまでその辺りが分析できるかわかりませんが、分析を注力いたしまして、皆様にまた次回お示ししたいと思っておりますので、御理解いただきたいと思っております。</p> |
| 渡邊委員 | <p>まとめを出すのはいつぐらいですか。</p>   |
| 事務局  | <p>令和8年度の第1回の審議会を7月に予定しております、資料についてはなるべく早めに送付したいと思いますので、6月中ぐらいまでには御意見いただければと思います。</p>  |
| 渡邊委員 | <p>本当にこのアンケートは多いので、これがベースになると思うと、本当に私はこの49.6%で次の市民の方に貢献できるかというのは、もっと確証が欲しい。</p>  |
| 熊谷委員 | <p>今、言う話ではないとは思いますが、問10のところ、身寄りのない方がどれぐらいで、どういう状況なのかということで、ある質問だけあったのですが、ここに宗教団体と地域コミュニティというのがあるのですが、なぜここが一緒なのかなというのが気になりました。</p> <p>近隣住民というのもあって、近隣住民、地域コミュニティならまだなんとなくわかるのですが、宗教団体と地域コミュニティっていうのが。あとは、地域コミュニティという言葉が、私たち関係者はわかるけれども、果たしてアンケートに答えられている方たちはわかるのかなというのも少し疑問に思いました。</p>  |
| 事務局  | <p>委員のおっしゃる通りだなという印象ですけども、担当としてはそこまで目が届かなかったということで、申し訳ございません。宗教団体の方ではなくて地域コミュニティの中にいた方がいらっしゃったかもしれません。</p>   |
| 廣瀬委員 | <p>問12ですが、過去の調査と比較すると「わずらわしいことが多いので、あまりしたくない」、それから「なくても困らないので、したくない」というのが増えているということですけど、この増えているというのはどういった年齢層で増えているのかが知りたいと思いました。</p> <p>自分の感覚でいうと、若い頃はわずらわしいと思ったんですけど、今はあまり自分の感覚でいくと思わなくて、この辺が増えているというのは、若い層で増えているのか、全体的に増えているのか、中身がどうなのかなというところが知りたいなということです。</p>   |
| 事務局  | <p>クロス集計をさせていただきまして、その年齢のところも次回の審議会の方で御報告させていただきたいと思っております。</p>  |
| 佐野会長 | <p>今、クロス集計のことが出てきましたので、ここも少し、こんな風に読みたいというような御意見はあるでしょうか。</p> <p>私からいいでしょうか。孤独・孤立に関するところは地域とか年齢とか、その</p>  |

|      |  |
|------|--|
|      | 辺で見ていけるとより詳しく見えるのではないかと思います。   |
| 事務局  | ありがとうございます。孤独・孤立に関連する質問についてはより詳細に、地域や年齢でクロス集計を出させていただきたいと思います。   |
| 渡邊委員 | <p>16 ページですけど、私はどうしても子供たちのことが気になって、(アンケートの結果は)子供の非行やいじめはとっっても少なくなったと表示しています。これ、この数字だけでいく危険性を感じます。なぜなら、もっと悪い現象になっているのではないか。いじめたりするときには何か表に出ているのです。でも、引きこもったり、もうやらなくなって、人にも意地悪もしない、もう自分が固まってしまう、自分の体の中に入ってしまう。不登校がこれだけ増えている今、このいじめがあるかないかを減ったという考え方だけでは少し危険なので、もう少し分析する必要があります。</p> <p>これがなぜこの数字だったのかというのは、やはり子供の今の学校の不登校の数を見ると半端ではないです。ほんとに子供たちは孤独でいっぱいかなと思います。大人も孤独な方がいっぱいいらっしゃるでしょうけれど、子供の孤独はもっと厳しいのではないかなと思うので、この辺をただ、3.2%で減ってよかったですね、で終わらないやり方を考えていただきたいと思います。</p>  |
| 佐野会長 | <p>なんとかしなければならぬと感じている問題を3つまでとした時に、その3つ選ぶ中から、いじめに丸がつかなくなっているということですよ。他に目がいつてしまっているということでもあるかと思います。</p> <p>特にない、が少し増えていますので、地域の課題として、それを捉える意識が少し弱まっているのかもしれないという、そんな解釈もできるかもしれません。防災が1個入ってきているので、3つ選ぶという中から落ちたのかもしれないし、回答者の年齢層が割と高めの人が多く、子育て世代とかが少ないので、そんなことの影響もあるかもしれません。</p> <p>ただ、防災が入ったら、そこが増えたというのは、やはり市民の意識としては、防災の意識が、色々な災害の状況踏まえて高まっているということかもしれません。</p> <p>先ほど、幼児教育の立場から、みんなが働くという社会になっているので、とても家にいる時間が少ないというようなこともおっしゃっていただきましたけれども、現状としてそういう社会になってきていますし、一方で、この福祉サービスが充実してきているということはこの調査で現れていますけれども、じゃあサービスが充実することと地域活動が盛んになるってということが、両方一遍に上がっていけばいいのですが、それは福祉行政の仕事ということになると、その地域活動の方の意識が下がってしまうということになるので、ここのところの意識を喚起するのが相当大変な感じになってきますね。</p> |
| 渡邊委員 | <p>私、ずっと幼稚園で60年前からやっていますけれども、10何年前から民間移管で助生保育園を担当させていただいています。そこで初めて民生委員の方と本当に深くお話ができました。幼稚園の時には教育関係の方だけお呼びするというんですけども、保育園は地域の方が行事も最初から最後までいてくださいます。</p> <p>びっくりしました。本当に保育園の文化、みよしの子供たちを見守るといのがもうずっと根付いているのです。それはすごい。だから、民生委員の方のお人柄とか、各箇所ですることやっているとって、御高齢の方のコーヒー飲みに来ていいよってというの、歌っているってというようなことも、そこで初めて聞いて、だからといって、どの地域もやっているわけじゃないけれど、私はたまたま助生地区で、その議員の方も、地域愛というのか、保育園を愛するというのが、保育園の中にずっと根付いているというのを、元々10保育園がありましたけれども、今4つ、5つが民間移管で、私たちは初めてそこで地域の方とお顔を見ながらお名前を覚えてっていうね。みよしはこういういいのがあるのにもったいない。</p>   |

|      |   |
|------|---|
|      | <p>だから、私なんか、このアンケートそのものをもう1回、時代を、今あるいいものをこのアンケートの中にきちんと入れてほしい。このアンケートそのものにごくいいものがなんかそのまま流れていってしまうような。</p> <p>私たちも民間移管して、本当に地元のお友達が増えました。毎回ただ入園式と卒園式と運動会だけお会いするだけでも、本当に。</p> <p>そして、民生委員の方はずっとやっていただいています。区長さんが1年で変わるのがすごく寂しいという。議員の方はずっと来ていただいて挨拶をしてくださるとい、それも議員の方でとてもお話できないと思っていた方が、地域の中の顔で話してくださるといのは、幼稚園では何十年やっても味わうことができなかった。</p> <p>幼稚園はみよしだけではなく東郷町とか日進市からもいらっしゃるので、みよしのいいものがだんだん、10園あったのに5園になったら、これが各園の考えでこう薄くなっていくのかという寂しさを感じます。あれだけ子供の未来に微笑んで応援してくださる、なんと1時間半もいてくださるなんていうのは、みよしのそういうようなことを、もっと残さなきゃいけないことをきっちり知ってもらいたいようなもの。</p> <p>それから、働くのも、近所付き合いなんてないという、もう本当に少なくなっています。もし近所付き合いをやるなら市ともっと私たちのここで何かを組み立てないと、今のままアンケートだけとっていったら、もうだんだん、お顔は見るけど挨拶も交わしていませんというような関係もやってくる。危機的な、みよしはいい田舎の良さではなく、都会的になっているというのをすごく感じます。</p> |
| 佐野会長 | <p>例えばそういう保育園の実践であるとか、民生委員さんの繋がりとか、そういう別々の様々な実践をどのようにみんなで共有していくか、広げていくのか。それから、このアンケートの結果というの、ある側面を捉えていることは事実なので、ここからどのようにその対策をしていくか、次の計画につなげていくかということになっていくのかなと思います。</p>  |
| 渡邊委員 | <p>答えがわかっているようなものが多いです。絶対にご近所と本当に腹を割って話すとか、そんな時代ではないという、用心し合いながらです。だから、私は本当に保育園で感動しているのは、保育園の行事の時は、入園式、卒園式、必ず行きます。でも、式には出ないです。だって、日々子どもたちを見てないのに、やっぱり失礼だと思って。その代わり、来賓の方と最初にお茶を飲んで、今年もありがとうございますと言って、何名がこうして無事に入園して、そしてこういう風にしますとか、誰々さんのお孫さんいらっしゃいますねとか。そして式が終わったらもう1回お茶でもどうぞという風に。その時間が、私はみよしをすごく深く知る機会になりました。</p> <p>地元の人はいま何十年も、あそこは違う、あそこはなんとかさんがいたところで、今もう何件しかないとか、そういうことが私たちは1番知りたいことだったので。だから私は行事には出ないけれど、お話をするだけに最初と最後に30分ずつぐらい出ているというのが現実です。</p>  |
| 佐野会長 | <p>そういった繋がり作りも大事ということかなと思います。</p> <p>1点確認したいことがあったので、いいでしょうか。27ページからの間19のところ、公益活動の参加というのがあり、28ページにそれが行政区別になっていますが、多くのところは参加してないがすごく多いのに、平池と上ヶ池の「高齢者に関する活動」が100パーセントになっています。母数は少ないのですが、この地域は何かあるのでしょうか。</p>  |
| 梅川委員 | <p>平池はこのみよし市の中で高齢化率が1番高く、この「高齢者に関する活動」というのは、約10年前から、よく社協さんで体操教室とか色々なものがありますけども、その頃から高齢化が始まっていて、とてもそこまでは行けないということで、地域でその高齢者に対する体操とかをして欲しいという要望がありましたので、その当時の区長さんと、今のいきいきクラブ、昔の老人会の会長さん</p>   |

|      |   |
|------|---|
|      | <p>お願いして、高齢者というと怒られてしまうので、このまま平池でお年をとってもずっと住めるようにしようということで、体操教室というか、ヨガサイズを始めました。</p> <p>今は男性がなかなか体操というのは来てくださらないので、麻雀とか、月1回専門の先生を呼んで音楽療法とか、エアロビはさすがに高齢者の方は無理と言われたので、簡単にできる優しい体操の先生を呼んだりしました。</p> <p>多分それで、「高齢者に関する活動」が100パーセントという数値になったかと思えます。</p>  |
| 江上委員 | <p>渡邊先生から、問14の子供の非行やいじめの件をお話いただいたので、小学校としてという感覚では、ずっと気になっていて、文科省の方も積極的にいじめを認知していくということで、学校としてはそういった数はどちらかという増えています。ただ、その対応がきちっと今だんだんできつつあると思えますけども、どちらかという引きこもりというか、今の不登校でいうと、いじめだとかそういったことよりも、人間関係がうまく取れないという子たちが結局家から出られずにいるというところがあって、そういった子たちをこれから地域でも支えていただけるといいな、ありがたいなと思っています。</p> <p>本当は、何とかしなければならないという設問の中に障がい児を「障がい者(児)を抱えている世帯のこと」というのがありますが、それ以外にも、引きこもりだとかそういった世帯のことだとかも設問の中に入れていただければよかったのかなということも少し思いました。</p> <p>それから、地域との関わりがほとんどないということで、現実そうだと思うのですが、学校としては、学校運営協議会とか地域学校協働活動だとか、そういった、特に小学校では来ていただいたり、中学校では出向いたりという活動が今広がっています。子供を介して地域の方たちと繋がるという、そういったことができるように、それこそまた週明け、今度、市教委の教育基本進行計画だとか、そちらにも私は出させていただくのですが、そういったこととの関連が今後できてくるといいのではないかなと思います。</p> <p>それは学校にとってもプラスになると思えますので、是非そのように進められるといいなと思いました。</p> |
| 事務局  | <p>学校教育課が各小中学校で行っている地域学校活動は、本市としても、地域共生社会や重層的支援体制整備事業との親和性も非常に高い内容だと思っております。実際に個別のケース等では、そういった関わりが少しずつできてきています。</p> <p>先ほど会長と渡邊委員がおっしゃられたような個別のケースの積み重ねというのにも確かに一方では行って、このアンケート結果についても、市民の方がどうだというような参考数値として捉えることを、両方を大事にしていきたいと思っていますし、来年度策定する地域福祉計画の中には、そういった取組の紹介もした方がいいのかなと思っていますので、また来年度も御意見いただけるとありがたいです。</p>   |
| 木下委員 | <p>アンケートの中での感想という形ですけれども、印象深かったのが問10ですね。</p> <p>大変な時に最も頼れるのは誰ですかというところで、90パーセント以上が家族というところになっているのですが、これは、ただ家族なんだねというところだけではなくて、今、ケアの問題っていうのが、ヤングケアラーだったりとかダブルケアラーだったりとかビジネスケアラーだったり、すごく家族介護に携わっている人たちの、ストレスというのなんですが、負担がかなり大きくなっているというのを我々団体の中でも感じているところです。</p> <p>これ、ややもすると、家族が行き詰まってしまうと虐待に発展してしまうことも考えられるので、ただ家族が多かったねというだけではなくて、ここから深掘りした計画を、次年度ちょっと考えていただきたいなっていう印象を受けまし</p>   |

|      |   |
|------|---|
|      | た。  |
| 事務局  | おっしゃる通りで、家族に一極集中しているような状況がいいのかと言われると、決してよくはない状況だと思いますので、その身寄りのない方を調べる一方で、こういった現状があるということは次期計画策定の際にまた材料として入れていきたいと思っております。   |
| 渡邊委員 | <p>個々の会は、みよしはたくさんやってくさっています。</p> <p>個別の取り組みをやっていらっしゃるのですが、これから市や地域、横に広がるということがないともったいなさすぎるし、本当に個別が活かされているということは1人1人が生きている、その成果が出るというのは、地域に必ずつながっていくはずなのに、個別で終わっている傾向が非常に多いと思います。</p> <p>それは我々その療育をやっていきます。保育園、幼稚園もそうです。個別の問題で終わっているのですが、地域に広がらないと本当に根本的な解決にはならないので、個別だけは結構みよしはよくやっていただいていると思うのですが、それがどうしたら広がっていくのかなというのが次の課題で私たちが持っていたいと思っています。</p> |
| 佐野会長 | <p>それでは、お時間になってまいりました。申し訳ありませんが、時間の都合上、ここまでにさせていただきます。他に質問等があれば、直接事務局までお願いいたします。</p> <p>修正後のアンケート結果報告書については、事務局で検討の上作成することで御了解、御理解いただき、最終案の確認は会長に一任とさせていただきますと思いますが、いかがでしょうか。</p>   |
| 一同   | 【異議なし】  |
| 佐野会長 | では、そのように進めさせていただきます。  |

### (3) 第5期みよし市地域福祉計画策定スケジュールについて

|      |  |
|------|--|
| 佐野会長 | 最後に、議題(3)、第5期みよし市地域福祉計画策定スケジュールについて、事務局より説明をお願いいたします。  |
| 事務局  | <p>第5期みよし市地域福祉計画策定スケジュールにつきまして、事務局から説明をさせていただきます。資料3を御覧ください。今年度のスケジュールにつきましては、先ほど会長からおっしゃっていただいたように、最終的に、年度の最後に報告書を作成する必要があります。そちらで終了となっております。</p> <p>次年度ですが、会議の中でも出たように、第3回の審議会を予定しております。こちらで具体的に計画の内容について皆さんに御意見いただきながら策定していく方向となっております。</p> <p>具体的には、7月頃に第1回の審議会を予定しております。この内容が、現計画の評価と、あと今回いただいたアンケート結果につきましての報告で、あとはその次期地域福祉計画の骨子の確認等をさせていただきますと思っています。</p> <p>次に10月の審議会ですが、その時までにはワークショップ等行いまして、第2回の審議会では、パブリックコメントに出す前の素案についての御意見をいただきたいと思っています。</p> <p>それらを経まして、第3回の審議会を2月ぐらいに予定をしております。そちらでは、具体的な計画書の案を完成させた上で、皆さんから御意見いただきまして、3月に印刷し、最終的には納品いただくということで、令和9年度からの計画期間が始まるというスケジュールで進んでいきたいと思っています。</p> <p>今年度、来年度と、2回、3回の会議に御参加いただきますので、また、御負担かけるとは思いますが、何卒、地域福祉の推進のために御協力をよろしく願います。</p> |
| 佐野会長 | それでは、本日予定しておりました会議の内容は、全て終了いたしました。審  |

|     |   |
|-----|---|
|     | 議への御協力ありがとうございました。これにて、本日の議長の職を終えたいと思います。この後は、事務局をお願いしたいと思います。  |
| 事務局 | 先ほど、スケジュールのところで説明しましたように、次年度会議を3回予定しております。次回の審議会時期は今年の7月頃を予定しておりますので、また調整の上、決まり次第御連絡させていただきます。資料はなるべく早めに送付させていただきますように心がけますので、よろしくお願いいたします。 |

### 3 その他

|          |  |
|----------|--|
| 福祉部次長兼課長 | 皆様、本日は貴重な御意見ありがとうございました。以上を持ちまして、令和7年度第2回みよし市地域福祉計画審議会を閉会させていただきます。<br>閉会にあたり、礼の交換をしたいと思いますので、御起立お願いします。<br>【一同、礼】<br>ありがとうございました。 |
|----------|--|

閉会